

基本目的 4 多くの人が働ける場が増える

行動目標 4-1 商工業の民間設備投資が進む

(所管課名 経営企画部政策課)

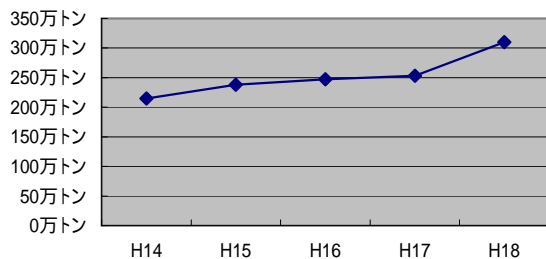
任務 産業構造の高度化を促進する

任務の成果・活動指標の推移

コンテナ貨物の取り扱い量(暦年)

H14実績	215万トン
H15実績	238万トン
H16実績	247万トン
H17実績	253万トン
H18目標	310万トン

コンテナ貨物の取り扱い量(暦年)



指標の説明

四日市港は国際中枢港湾として整備を進めていますが、港湾機能の充実をはかる目安として、コンテナ貨物の取扱量(暦年)を指標としました。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

四日市港では中枢国際港湾として一層の機能向上を図るため、スーパー中枢港湾の指定を受け、霞ヶ浦地区に国際海上コンテナターミナル・14m岸壁及び泊地の整備など外貿機能の強化を推進するとともに、海上人命安全国際条約に対応するため保安対策施設の整備を進めました。

また、内貿岸壁の整備や運河地区水門の改良、護岸の補強など安全対策に取り組むとともに、富双地区について緑地・親水空間の整備を実施しました。

今後、国際競争力のある港湾整備を推進するため、三重県の役割を拡大することについて協議を進め、四日市港管理組合負担金の見直しを行いました。

浜園地区には中部国際空港海上アクセスターミナルを整備し、民間事業者による旅客事業の基盤整備を行いました。

鈴鹿山麓研究学園都市については建設(一次)事業費負担金の支払いを終えました。

平成18年度

平成18年度からは新たな負担割合に基づき事業を進めますが、市民に親しまれる港づくりなど、本市の港湾整備に対する考え方が港湾整備に反映されるよう、四日市港管理組合と協議していくとともに、今後も継続して四日市港管理組合のあり方について検討していく予定です。

港湾整備としては、霞ヶ浦北埠頭において国際海上コンテナターミナル背後に今後展開するロジスティックパークの整備に向けた検討を開始するとともに、霞4号幹線の整備促進および霞大橋の耐震強化の整備促進を図ります。

浜園地区の海上旅客ターミナル開設に伴い、利便性の向上及び周辺地域の交通問題等に関する解消策を検討し、市民が利用しやすい環境を整備します。

これからの課題、施策等展開の方向性

四日市港については、引き続き、中枢国際港湾としての機能強化を図るとともに、はまそのターミナルをはじめ、市民に親しまれる港湾となるよう、関係機関と協議しつつ、整備を促進する必要があります。